

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100011		
法人名	社会福祉法人真栄会		
事業所名	グループホーム菜のはな		
所在地	佐賀県神埼市千代田町詫田989番地		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年3月4日	外部評価確定日	令和3年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・ご利用者目線での介護支援を行い言葉掛け、コミュニケーションを図りながらご利用者の思い等を第一に考え職員間で共有している。・外出が困難な時期は近隣の散歩や外気浴を行い気分転換を行っている。・レクリエーションを週3回行いゲームや歌等を行っている。・月行事でおやつ作りや誕生会、お茶会等ご利用者が好まれるようなサービスを提供している。・協力医療機関医師、看護師と連携を取りご利用者の健康管理を行っている。重度化した場合や医療が必要となられた際は隣接の特別養護老人ホーム入所がスムーズに行えるよう支援している。・平成24年特殊浴槽を設置している。筋力低下、寝たきり等で普通浴での入浴が困難になられても身体に負担なく入浴が出来る。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は法人の複合施設に隣接し、周囲は緑豊かな田園が広がる。散歩や外気浴の際に目にする風景は、利用者の心を癒しこれまでの地域での暮らしを思い起こしてくれる。</p> <p>認知症の方との関わりを深めたい、適切な支援で手助けをしたいという願いから開設されたグループホームであり、その願いは今も引き継がれ、利用者本位の支援が提供されている。「ご利用者の意思を尊重し、チームで利用者本位の介護を徹底する」ことが本年度の目標であり、利用者の日々の暮らしを質の高いサービスで支えている。レクリエーション専任や夜勤専任の職員を配置し、利用者第一の支援の一助になっている。</p> <p>住み慣れた地域との関わりは年々深まっている。この地域ならではの郷土行事「はんぎい競争」を見学し、この地域の風物詩であった「菱の実採り」を懐かしむ利用者もいる。例年、地域住民も参加しての法人主催の「ふれあい祭り」はコロナウィルス拡大防止のため実現できていないが、その代わりに事業所独自で「夏祭り」を計画し、利用者を楽しんでもらう等、コロナ禍の中での行事やレクリエーションの工夫が随所に見られる。調査日には利用者の笑い声も聞こえてきた。かかりつけ医に往診主体の診察をお願いしている健康管理には、利用者や家族も安心感を持っている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南)	自己評価／ユニットB(北)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	実施状況
			実施状況	実施状況	実施状況	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度はコロナ禍のなか地域との関わりは持てなかったが、ご利用者一人一人の思いや希望に合った生活の実現のため介護士会議でケース検討を行い議事録の回覧、申し送りノート等で職員全体に周知し共有している。	今年度はコロナ禍のなか地域との関わりは持てなかったが、ご利用者一人一人の思いや希望に合った生活の実現のため介護士会議でケース検討を行い議事録の回覧、申し送りノート等で職員全体に周知し共有している。	住み慣れた地域との関わりを踏まえてこれまでの理念を再検討し、現在の理念に至っている。理念が目指すところを具現化することで、理念の共有と実践に結び付いている。また、管理者や主任の適切な助言が、大きな役割を果たしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍で地域との付き合いは出来ていないが、例年は法人で行う行事『祭り・敬老会・避難訓練』に地域の方々の参加があり顔見知りの地域の方々との交流を図っている。 買い物、外食等を近隣で行い地域の一員として暮らしていけるようなサービスを提供している。	今年度はコロナ禍で地域との付き合いは出来ていないが、例年は法人で行う行事『祭り・敬老会・避難訓練』に地域の方々の参加があり顔見知りの地域の方々との交流を図っている。 買い物、外食等を近隣で行い地域の一員として暮らしていけるようなサービスを提供している。	事業所は自治会にも加入し、地域活動や住民との関わりを積極的にもっている。本年度は新型コロナウイルス感染防止のため実現出来なかったが、例年、この地域ならではの催し「はんぎい競争」に参加したり、事業所周辺の美化活動を自主的に行う等、地域とのつきあいを積極的に図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人では行っているが事業所では行っていない。	法人では行っているが事業所では行っていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の報告で月行事や日常の様子を写真で掲載し報告を行っている。また、ご利用者の健康状態や受診状況に関しても重ねて報告を行っている。 委員の方からの意見や助言等をもとにケアの振り返りを行いながらサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議の報告で月行事や日常の様子を写真で掲載し報告を行っている。また、ご利用者の健康状態や受診状況に関しても重ねて報告を行っている。 委員の方からの意見や助言等をもとにケアの振り返りを行いながらサービスの質の向上に努めている。	地域の理解と支援を得るための有意義な機会であり、運営推進会議の意義が活かされている。地域内を流れる河川氾濫に備えて地域と協力体制を図る、防災無線の増設、玄関スロープの延長など、直接運営に関する話題も協議され、その後の運営に活かされている。 コロナ禍で年間計画通りに開催ができなかった場合は、各委員に文書で報告し、意見をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南)	自己評価／ユニットB(北)	外部評価	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	(評価機関記入欄) 実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市町村担当者の出席があり認知症推進委員の方からの意見や報告もあっている。地域に暮らされている認知症の方々への支援等も参考にしながらサービスの提供を行っている。	運営推進会議には市町村担当者の出席があり認知症推進委員の方からの意見や報告もあっている。地域に暮らされている認知症の方々への支援等も参考にしながらサービスの提供を行っている。	管理者がおりにふれ行政の窓口に出かけたり、電話等で報告や相談をする機会も多く、協力関係が構築されている。本年度は特に感染症対策には細部にわたって綿密な連携がとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を定期的に行い事例を揚げながら職員に身体拘束になりえる事柄の理解ができるよう指導している。玄関の施錠は行っているが、外出の希望があれば職員が同伴している。	身体的拘束適正化委員会を定期的に行い事例を揚げながら職員に身体拘束になりえる事柄の理解ができるよう指導している。玄関の施錠は行っているが、外出の希望があれば職員が同伴している。	重要事項説明にあたって、身体拘束を行わない事を約束している。身体拘束がない支援についての研修会を、2ヶ月毎に開いている。利用者の肩に手を置いた場合は拘束にあたるか、抑圧感を感じさせない声かけとは等、具体的な行為を取りあげての勉強会である。職員は身体拘束について具体的に理解を深めている。これまで身体拘束の事例は無い。	玄関の施錠は、不審者の侵入対策、玄関が交通量が多い道路に面していることから安全上止むを得ずのことである。施錠が拘束にあたる事は十分に認識もしている。法人全体の方針でもあるが、鍵をかけなくても利用者の安全を確保し、抑圧感のない暮らしの支援について再々度の検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修や介護士会議の中で研修を行い現状の言葉掛けやサービスが適切か常に考えながら行動するようにしている。	法人での研修や介護士会議の中で研修を行い現状の言葉掛けやサービスが適切か常に考えながら行動するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過介護とならないよう、ご利用者の『出来る事』を活かしたサービスの提供を行っている。成年後見制度については実施していない。	過介護とならないよう、ご利用者の『出来る事』を活かしたサービスの提供を行っている。成年後見制度については実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の内容を分かり易い言葉で説明し理解されたうえで同意を得ている。介護報酬改定時は改めて文書にて説明を行い同意を得ている。	契約書、重要事項説明書の内容を分かり易い言葉で説明し理解されたうえで同意を得ている。介護報酬改定時は改めて文書にて説明を行い同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置している。面会時やカンファレンスの際に意見や要望を尋ねている。 ご家族からの要望等は申し送りノートの活用、施設運営に関する事は法人施設長へ報告を行い改善している。	玄関先に意見箱を設置している。面会時やカンファレンスの際に意見や要望を尋ねている。 ご家族からの要望等は申し送りノートの活用、施設運営に関する事は法人施設長へ報告を行い改善している。	利用開始時に重要事項として相談窓口について説明し、ご意見箱も置いている。また家族アンケートの実施や、運営推進会議の際に家族代表から意見や要望を聴いている。 居室の空調掃除の要望には即座に対応している。 家族面会時には相談しやすい雰囲気づくりに配慮しているが、本年度はコロナ禍で面会制限があり、電話等で連絡を密にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目標管理シート、自己評価表等を活用し職員の意見や要望等は年2回の面談時間取りを行い出来る限りの改善や整備に努めている。	目標管理シート、自己評価表等を活用し職員の意見や要望等は年2回の面談時間取りを行い出来る限りの改善や整備に努めている。	管理者や代表者は職員の意見や要望をしっかりと聞き、利用者のために何が出来るかを前向きに検討している。コロナ禍における外出支援や地域との関わり方、レクリエーション専用・夜勤専用の職員配置、機械浴設備の設置など運営に活かされている例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人施設長、事務長との面談を年に2回行い目標達成状況、勤務状況等を踏まえ職場環境の整備や条件の整備に努めている。	法人施設長、事務長との面談を年に2回行い目標達成状況、勤務状況等を踏まえ職場環境の整備や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所へ出向きケアの実態や力量の把握を行っている。 施設外研修等の受講の機会を確保している。	事業所へ出向きケアの実態や力量の把握を行っている。 施設外研修等の受講の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県老協開催の研修会やグループホーム長等意見交換会に参加し交流や情報交換を行っている。 意見を基に持ち帰り検討を行っている。	県老協開催の研修会やグループホーム長等意見交換会に参加し交流や情報交換を行っている。 意見を基に持ち帰り検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南)	自己評価／ユニットB(北)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前調査にて本人の希望や家族の思い、不安に思われている事を確認し、安心して生活出来るよう努めている。	入居前調査にて本人の希望や家族の思い、不安に思われている事を確認し、安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な話し合いをご家族と行い、不安が払拭出来るようなサービスを提案している。	十分な話し合いをご家族と行い、不安が払拭出来るようなサービスを提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を共有し必要なサービスを提供している。 他のサービスの支援に関しては居宅支援事業所、法人と連携し対応に努めている。	入居前の情報を共有し必要なサービスを提供している。 他のサービスの支援に関しては居宅支援事業所、法人と連携し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事(洗濯物たたみ、食器拭きりネン交換等)ご利用者と一緒に行い出来ない箇所をさりげなく手伝いながら関係を築いている。	家事(洗濯物たたみ、食器拭きりネン交換等)ご利用者と一緒に行い出来ない箇所をさりげなく手伝いながら関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に訪問でき居心地良く過ごして頂けるよう飲み物の提供等行う。認知機能の低下でご家族の事を忘れられているご利用者には会話が続けるように職員が同伴している。	気軽に訪問でき居心地良く過ごして頂けるよう飲み物の提供等行う。認知機能の低下でご家族の事を忘れられているご利用者には会話が続けるように職員が同伴している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南)	自己評価／ユニットB(北)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の事やご利用者の子供の頃の事などを話しながらコミュニケーションを図っている。 また、居室にはご家族の写真を飾っている。馴染みの方の面会時には話せる範囲で普段の様子を話している。	ご家族の事やご利用者の子供の頃の事などを話しながらコミュニケーションを図っている。 また、居室にはご家族の写真を飾っている。馴染みの方の面会時には話せる範囲で普段の様子を話している。	コロナ禍で面会制限以前は、家族や友だちの訪問時には、お茶や茶菓子を用意してゆっくりと時間を過ごしてもらっている。隣接する特養施設に友人を訪ねる利用者もあった。行きつけだった美容室へ出かけたり、家族の協力で外食したり、一時帰宅もあったが、今は実現できないでいる。 面会制限後は透明アクリル板で仕切ったり、ガラス越しでの家族との面会やリモート面会も試みている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格等を把握し円滑に馴染みの関係が出来るよう職員が間に入りコミュニケーションを図っている。ご利用者間のトラブルが発生しないよう見守りを行っている。	ご利用者の性格等を把握し円滑に馴染みの関係が出来るよう職員が間に入りコミュニケーションを図っている。ご利用者間のトラブルが発生しないよう見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても併設の居宅支援事業所、特養の職員を通じて情報を共有し相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても併設の居宅支援事業所、特養の職員を通じて情報を共有し相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の思い、意向等を伺いその方に合ったサービスの提供に努めている。 困難事例等は介護士会議の中で検討している。 ご家族の協力が必要な場合は協力を仰いでいる。	個人の思い、意向等を伺いその方に合ったサービスの提供に努めている。 困難事例等は介護士会議の中で検討している。 ご家族の協力が必要な場合は協力を仰いでいる。	居室担当制を採っている。隣に座りながら、取りとめのない会話やつぶやき、表情の変化、しぐさなどから、より深く利用者の心情を察し、その後の支援に活かしている。心に秘めている帰宅への願いもしっかりと受け止めている。 申し送りノートも記入方法を工夫し、利用者の思いや意向を職員全員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、経緯等をご本人、ご家族、担当ケアマネジャー等より情報収集を行っている。内容については全職員に周知している。	入居前の生活歴、経緯等をご本人、ご家族、担当ケアマネジャー等より情報収集を行っている。内容については全職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録システム、管理日報、申し送りノートを活用し把握に努めている。状態変化時には必要に応じ適宜ケース検討を行っている。	介護記録システム、管理日報、申し送りノートを活用し把握に努めている。状態変化時には必要に応じ適宜ケース検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース検討でご利用者の状況や課題について話し合いを行っている。状態変化時はご家族に報告しその都度、現状に適した介護プランを作成している。	毎月のケース検討でご利用者の状況や課題について話し合いを行っている。状態変化時はご家族に報告しその都度、現状に適した介護プランを作成している。	利用者や家族の暮らしに対する意向を反映し、利用者の持ち味を活かした介護計画である。何よりも利用者主体の具体的なサービス計画書である。介護計画作成にあたっては、アセスメントの再確認、モニタリングを行い、適時にケース検討会議を開き、計画の見直しもしている。利用者や家族を含めて、全職員が関わり合って作成された計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を介護記録システムに記載し申し送りを行っている。毎月介護計画の評価を行っている。介護計画作成時にはアセスメントの再確認、モニタリングを行い適宜ケース検討を行い見直している。	日々の状況を介護記録システムに記載し申し送りを行っている。毎月介護計画の評価を行っている。介護計画作成時にはアセスメントの再確認、モニタリングを行い適宜ケース検討を行い見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズに応じたサービスを提供出来るように話し合いを行い柔軟なサービス提供が出来るよう取り組んでいる。	ご本人、ご家族のニーズに応じたサービスを提供出来るように話し合いを行い柔軟なサービス提供が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への買い物、外食の機会、馴染みの方に会いにデイサービス、特養に同伴している。希望で美容室の利用等を行っている。	近隣への買い物、外食の機会、馴染みの方に会いにデイサービス、特養に同伴している。希望で美容室の利用等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	受診前に協力医療機関医師に状態 報告を行っている。 他科受診が必要な場合は、ご家 族、本人の希望される病院を協力 医療機関医師に報告している。	受診前に協力医療機関医師に状態 報告を行っている。 他科受診が必要な場合は、ご家 族、本人の希望される病院を協力 医療機関医師に報告している。	利用者や家族が希望する病院での 受診である。現在コロナ禍で受診に 行けないので、協力医療機関から 往診に診てもらっている。協力医 療機関とは何時でも相談ができる 関係にある。健康管理には、緊急 時の対応と相まって利用者や家族 の安心感になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよう に支援している	定期的に看護師が健康チェックを 行っている。医療面での助言や相 談を行っている。 特変時は協力医療機関医師との連 携をとり適切な医療を受けられるよう 支援している。	定期的に看護師が健康チェックを 行っている。医療面での助言や相 談を行っている。 特変時は協力医療機関医師との連 携をとり適切な医療を受けられるよう 支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族と共に受診しご 利用者の情報提供を行っている。 医師からの説明を受け状況を把握 している。また、医療連携室SWとの 連絡をとっている。	入院時にはご家族と共に受診しご 利用者の情報提供を行っている。 医師からの説明を受け状況を把握 している。また、医療連携室SWとの 連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明を 行っている。医師が『看取り』と判断 しご家族に説明された後、看取り指 針の説明を行い同意を得ている。 医療や特養入所を考えられている ご家族には意向に添えるよう事業 所全体で支援している。	入居時に重度化した場合の説明を 行っている。医師が『看取り』と判断 しご家族に説明された後、看取り指 針の説明を行い同意を得ている。 医療や特養入所を考えられている ご家族には意向に添えるよう事業 所全体で支援している。	指針を備えている。契約時に終末 期にできること、できないことを伝 え、利用者や家族の理解と納得を 得ている。これまでに看取り介護の 事例もあり、家族、主治医、関係者 と緊密な連携をとり、最期を見送っ ている。看取り介護の際は家族も泊 まることができる。 飲食を摂る事も出来なかった利用 者が、職員の懸命な支援で、普通 に食事を摂れる状態にまでに回復 している例もあり、職員の喜びにも なっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で救命救急の研修を実施している。外部(日赤、消防)AED、心肺蘇生術を学びご利用者の急変や事故に備えている。	法人で救命救急の研修を実施している。外部(日赤、消防)AED、心肺蘇生術を学びご利用者の急変や事故に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。水害訓練は菜のはな独自に行った。避難場所はサ高住。避難訓練は地域の方の参加がある。	年に2回避難訓練を行っている。水害訓練は菜のはな独自に行った。避難場所はサ高住。避難訓練は地域の方の参加がある。	夜間の火災発生を想定して、隣接法人の応援を得ての避難訓練である。地域住民の参加もある。地元消防団には別の機会に居室の位置や消火栓の場所、避難経路等を確認してもらっている。また、ホーム独自に水害時における避難訓練を実施し、諸課題を細部にわたって確認している。非常食や飲料水の備蓄も出来ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で接遇に取り組んでいる。ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉使いを心がけて対応している。	法人全体で接遇に取り組んでいる。ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉使いを心がけて対応している。	その人らしい尊厳のある姿を大切にすることを支援の基盤にしている。利用者を人生の先輩、年長者としての敬意をもって接しての支援である。さりげない言葉かけや対応に配慮している。主任は、利用者の表情や行動を「合わせ鏡」の関係にあると指導助言をし、利用者のより深い理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや望みを何気ない会話の中で聞き入れ自己決定が出来るような言葉掛けを行なっている。	思いや望みを何気ない会話の中で聞き入れ自己決定が出来るような言葉掛けを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者本位の支援を心がけ、ご自分のペースで過ごされるよう支援している。ご利用者の思いを優先する事を心がけている。	ご利用者本位の支援を心がけ、ご自分のペースで過ごされるよう支援している。ご利用者の思いを優先する事を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝時、起床時には着替えを行っている。ご自分で衣服を用意される方以外は職員が用意をしている。起床時にご自分で洗顔等が出来ない方は職員が行い身だしなみを整えている。	就寝時、起床時には着替えを行っている。ご自分で衣服を用意される方以外は職員が用意をしている。起床時にご自分で洗顔等が出来ない方は職員が行い身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒にお喋りをしながら食事をしている。後片付け、お膳、食器拭き等を一緒に行っている。	ご利用者と一緒にお喋りをしながら食事をしている。後片付け、お膳、食器拭き等を一緒に行っている。	法人の管理栄養士による献立で、高齢者向けの栄養バランスの取れた食事が提供されている。嗜好調査も活用した献立である。行事や季節に合わせた献立もある。法人の厨房での調理であるが、ご飯とみそ汁はホームの台所で賄っている。食事の席は、対面にならない様に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の献立でバランスのとれた食事が提供出来ている。状態に合わせ食材に切り込みを入れたり言葉掛けを行ない食事摂取量が減ることがないように支援している。十分な水分摂取が出来るよう食事以外に起床時、10時、15時に水分を提供している。	併設施設の管理栄養士の献立でバランスのとれた食事が提供出来ている。状態に合わせ食材に切り込みを入れたり言葉掛けを行ない食事摂取量が減ることがないように支援している。十分な水分摂取が出来るよう食事以外に起床時、10時、15時に水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗口液を使用し歯磨き以外でも口腔内の清潔を保てるよう支援している。磨き残し等がないように就寝前の口腔ケア時は確認を行い介助を行っている。義歯の方はポリドントを使用している。	洗口液を使用し歯磨き以外でも口腔内の清潔を保てるよう支援している。磨き残し等がないように就寝前の口腔ケア時は確認を行い介助を行っている。義歯の方はポリドントを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々にあった排泄パターンを把握している。座位がとれる方はオムツを使用されていても状態に合わせて付き添い似てトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し個々にあった排泄パターンを把握している。座位がとれる方はオムツを使用されていても状態に合わせて付き添い似てトイレ誘導を行っている。	日中はトイレでの排泄ができるようにと支援している。排泄チェック表を工夫したり、尿意を現わす動作や言葉から、個別の排泄支援が丁寧に行われている。夜間は就寝前のトイレを支援している。夜間だけのパット使用の方は数名である。利用者の排泄実態に合わせて自立への支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後の冷たい牛乳の提供、ヨーグルト等を提供し自然排便を促している。腹部マッサージ等併用している。	起床後の冷たい牛乳の提供、ヨーグルト等を提供し自然排便を促している。腹部マッサージ等併用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	状態に合わせて普通浴、機械浴を使用している。入浴を拒否される方に対しては毎日言葉掛けを行なっている。自力での入浴が可能な方は見守りを行っている。	状態に合わせて普通浴、機械浴を使用している。入浴を拒否される方に対しては毎日言葉掛けを行なっている。自力での入浴が可能な方は見守りを行っている。	特に入浴日は設けずに毎日入浴が出来る。入浴時間もゆっくりで、利用者の本音が聴ける場でもある。柚子湯や菖蒲湯を楽しんでもらう事もある。浴室を増設しての特浴の設置で、利用者の入浴が容易になり、職員の負担も軽減した。お湯は、利用者の入浴毎に新しく取り換えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペース、状態に合わせて居室静養の言葉掛けを行なっている。寝具調整、安楽な体位で眠る事が出来るようクッション等を使用している。	本人のペース、状態に合わせて居室静養の言葉掛けを行なっている。寝具調整、安楽な体位で眠る事が出来るようクッション等を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っている。薬の内容は個々にファイルに綴りいつでも確認できる状態にしている。	服薬管理は職員が行っている。薬の内容は個々にファイルに綴りいつでも確認できる状態にしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南)	自己評価／ユニットB(北)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割りを持たれるよう好まれる家事手伝い(裁縫、洗濯物等)を分担し『出来る事』を担当してもらっている。嗜好品の提供は適宜行っている。楽しめるようなレクリエーションを行っている。気分転換ができるよう外出、散歩等の支援を行っている。	役割りを持たれるよう好まれる家事手伝い(裁縫、洗濯物等)を分担し『出来る事』を担当してもらっている。嗜好品の提供は適宜行っている。楽しめるようなレクリエーションを行っている。気分転換ができるよう外出、散歩等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍で出来ていないが、例年は買い物、外食等の外出支援を行っている。ご本人やご家族の外出がスムーズに行えるよう努めている。	今年度はコロナ禍で出来ていないが、例年は買い物、外食等の外出支援を行っている。ご本人やご家族の外出がスムーズに行えるよう努めている。	新型コロナウイルス感染防止のため、思う様に外出ができないが、ホーム周辺を散歩したり、外気浴をしている。ホーム周辺の農作物を眺めたり、新鮮な空気に触れて気分も新たになっている。これまで希望に沿って実現していた、買い物、外食、おやつやデザートを楽しむ外出、車から降りないドライブ、花見や鯉のぼり見学、道の駅や森林公園などへの外出支援は控えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族が行われている。日用品の買い物は職員が小口金を預かり購入している。	金銭管理はご家族が行われている。日用品の買い物は職員が小口金を預かり購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次ぎ、ご利用者が電話をかける事を望まれれば職員が対応し電話をかけている。手紙を出される時は切手、封筒、便箋等を購入し渡している。	ご家族からの電話の取次ぎ、ご利用者が電話をかける事を望まれれば職員が対応し電話をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南)	自己評価／ユニットB(北)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、室温等の調節を行い心地よい空間作りに努めている。フロアに季節の花を飾ったり庭の木々と一緒に眺める事で季節感をあじわって頂いている。	音、光、室温等の調節を行い心地よい空間作りに努めている。フロアに季節の花を飾ったり庭の木々と一緒に眺める事で季節感をあじわって頂いている。	リビングは天井まで吹き抜けの構造になっており、自然採光で明るく、静かでもある。空気清浄機を置き、窓を開けての換気にも努めている。ソファやテーブルも利用者が利用しやすい様に配置されている。トイレ、浴室も利用者が安心感をもてる作りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを設置し録画した歌番組を馴染みの方と一緒に視聴したり、天気の良い日には玄関前のベンチやイスに座られ思い思いに過ごされるような工夫をしている。	フロアに設置しているソファに座りテレビを視聴されたりこの会う方と一緒にテーブルでお喋りや歌を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、使い慣れた品々を持って来られ好みに合わせ配置や飾り等ご家族がされている。	入居される際、使い慣れた品々を持って来られ好みに合わせ配置や飾り等ご家族がされている。	利用者が落ち着き安らぎを覚える様にと、使い慣れた物や馴染んだ品が、家族の協力で持ち込まれている。たんす、鏡、小テーブル、鏡、その他色々な物が見られる。孫やひ孫の写真は、家族との絆を感じさせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、トイレ、洗面所等の場所が分からない方が多くおられるが、文字や飾り物で場所が分かるような工夫をしている。	自室、トイレ、洗面所等の場所が分からない方が多くおられるが、文字や飾り物で場所が分かるような工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○		1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない